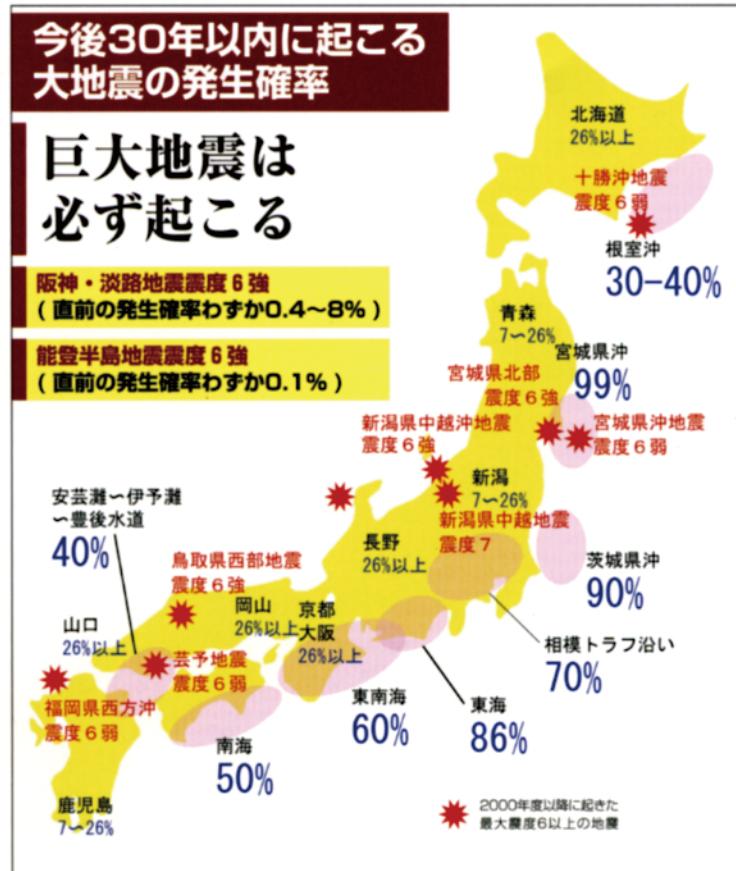


住まいづくりは、まず地震対策から



日本列島に、もはや安全な地域など存在しません



どれだけ素敵なデザインであっても、
どれほど快適な設備が整っていても、
地震に強い住まいでなければ全てが
台無しになってしまいます。

左のハザードマップは、今後30年内に震度6弱以上の巨大地震が発生する確率を示したものです。皆さんにお住まいの地域はいかがでしょうか?

2007年にあって、能登半島地震、新潟県中越沖地震が発生し、甚大な被害をもたらしました。この地域の直前の発生確率(30年以内)は、それぞれわずか0.1%、3.3%だったにもかかわらず、こういった事態に遭遇しています。

日本周辺は複数のプレート境界の上にあり、世界のわずか0.2%の面積にもかかわらず、地球上の地震エネルギーの10%が集中しています。

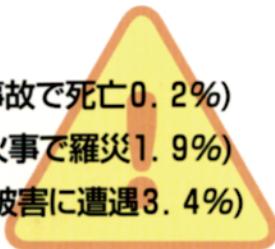
私たちは世界で最も地震対策を考えなければならない地域に住んでいるのです。



今後30年以内に他の災害・事故に遭遇する確率と比較すると…

日常生活において、みなさまは何に注意を
払いますか?

- 『車に気をつけて』(交通事故で死亡0.2%)
- 『火の元だいじょうぶ?』(火事で罹災1.9%)
- 『カギをかけた?』(空き巣被害に遭遇3.4%)



実際、身近なところには注意を払いますが、「地震に気をつけよう」と普段から思われる方は、まことにないのではないか。でも、家を建てるときはそうもいきません。

建物の寿命から考えてみても、一度は震度6以上の地震に襲われる覚悟をしておいた方が良いと言えます。

現在の耐震基準は震度6の地震1回に限り倒壊しないというものなので、耐震基準を満たしただけの建物では震災後に引き続き住むためには大規模な復旧工事が必要です。

| | |
|----------|------|
| 交通事故で死亡 | 0.2% |
| 大雨で罹災 | 0.5% |
| 火災で罹災 | 1.9% |
| 空き巣被害に遭遇 | 3.4% |
| ガンで死亡 | 6.8% |
| 交通事故で負傷 | 24% |

資料: 地震調査研究推進本部